



なぜ、「縄文」が世界遺産になるまで。

岡田氏は講演で、縄文遺跡を世界遺産に推薦するためにクリアしてきた課題や問題点を紹介しながら、13 年を要した世界遺産登録までのあゆみと構成遺産を紹介。

「日本列島に広がる縄文遺跡の中でなぜ、北海道・北東北の 17 遺跡だったのか？」という話題では、世界遺産登録で重要視される「シリアルノミネーション（連続性のある資産）=同一の歴史・文化群であること」という考え方が紹介されました。

土器や土偶・祭祀のあり方などに違いが見られるように、すでに地域ごとの文化圏が存在していた縄文時代。北海道・北東北は自然環境を含め同じ文化圏であることから、道県をまたぎ、登録を推進してきました。

会場からは「今までなぜこの地域に限定しているのか疑問だったが納得できた」という声が多数聞かれました。

日本全土に広がる縄文文化。

水ノ江氏は『日本列島に広がる縄文文化』と題し講演。導入として世界遺産は危機的な状況にある遺産の保護から始まったものだが、現在では「文化財保護から観光の手段となっている」という課題を指摘しました。

本題では、今回登録された遺跡のほか、西日本の縄文遺跡を中心に遺跡や出土品を紹介しました。水ノ江氏は「これまで、縄文研究は東日本中心で縄文文化は「東高西低」といわれてきた。しかし南島でも独特な縄文文化が生まれ、日本全土に縄文文化が広がっていた。西日本の縄文文化も正しく評価してほしい」と語りました。会場は、次々に紹介される西日本の出土品の数々に興味深く見入っていました。

なにが評価されたの？

縄文遺跡群の世界遺産としての価値

1 万 5 千年という長期間にわたって、「採集・漁労・狩猟を基盤とした生活を継続したこと」「土偶や祭祀にみる高度な精神性」は、世界的に見ても稀であり、**農耕が定着する以前の人類の生活のあり方と複雑な精神性を示すもの**として「顕著な普遍的価値」（＝全人類にとって将来に残しておくべき価値のある資産）が認められました。



縄文文化の魅力と里浜貝塚を考える。

第二部は、両講師と縄文村館長による対談『縄文遺跡と世界遺産 - 世界に誇る縄文の魅力 -』を行いました。

今回の世界遺産登録について岡田氏は「**名もなき普通の人々の生活が、世界的に認められた。これは本当に誇るべきことで、世界遺産の可能性も広げた**」と強調。

水ノ江氏は「世界に類をみない独自の文化を誇りに思っしてほしいし、今回の登録をきっかけに日本列島全体にある縄文遺跡に興味を持ってほしい。そのなかでも里浜貝塚は、縄文を代表する遺跡で特別史跡にも値する遺跡。もっと PR して行ってほしい」と提言されました。

会場からは「とても興味深い対談だった。縄文文化が世界史で認められたという話に感銘を受けた」「日本独自の文化・精神を遺跡から読み取り世界に発信するのが世界遺産登録だということがわかった。大変な努力。」「登録をきっかけに縄文好きが増えてくれたらうれしい。」など感想が聞かれました。

名もなき人々の生活が世界的に認められた！

村報 縄文村

Feb 2022
Vol.70
発行

22年2月現在
村びと数532人
世帯数178世帯



ホームページ



facebook



instagram



▲オオヤマネコの下顎（里浜貝塚出土）

寅年にちなんで・・・

トラ（虎）はネコ科最大の動物で、四〇万年前頃には日本にも生息していました。北は青森から南は九州の大分まで、全国十数か所でアムールトラの化石骨が見つっています。大陸と陸続きになっていた頃に多くの動物とともに渡ってきて、旧石器時代の氷河期にマンモスやヒョウ、ヘラジカ、バイソンなどとともに絶滅したと考えられています。日本人が実物のトラを見ることができたのは江戸の終わり頃。飼われるようになったのは明治になってからで、上野動物園が最初です。それ以前は虎皮や障壁画を通してしか見

ることができませんでした。

縄文人もトラに遭遇することはなかったようですが、同じような牙をもつネコ科の動物としては、オオヤマネコが日本列島に生息していました。体長が1mを超える大型のネコで、全国 17 の縄文遺跡で確認されています。中には、顎の骨や牙に穴をあけたものもあり、縄文人の狩猟の対象だったことがわかります。

オオヤマネコは里浜貝塚からも見つっています。縄文時代後期末～晩期の初め頃、約三千年前のもので、下顎の骨が左右つながった状態で出土しています。ヒョウを思わせるような頑丈な骨で、顎の長さは 10cm を超えるとみられ、体長 1 mほどの老齢の雄と推定されます。縄文時代の宮戸島にヒョウと変わらない大きさのネコがいたなんて。信じられますか？

オオヤマネコは弥生時代以降の遺跡からは見つからないことから、縄文時代に絶滅したと考えられています。里浜貝塚のものは出土した中で最も新しく、絶滅寸前のオオヤマネコだったかもしれません。



▲現生のオオヤマネコ属

村びとの皆様にお送りした年賀状、ご覧いただけましたか？その中で「寅年に注目したい展示品」とご紹介したオオヤマネコの骨について、詳しくお話ししたいと思います。オオヤマネコの骨は、1階の狩りのコーナーに展示されています。探してみてくださいね！



！重要！

イベントカレンダーの送付と受付方法の変更について

今号に、令和4年度のイベントカレンダーを同封いたします。

これまで先着順でイベントのお申し込みをお受けしていましたが、ここ数年競争率が上がり、早いもので2日で定員に達するイベントも出てきたことから、今回から、応募者多数となったイベントは抽選に変更させていただきます。

当館のイベント枠は、8 割がファンクラブ会員・2割が市民とさせていただいております。

「先行予約」は、ファンクラブの一番の特典であることは承知しておりますが、より多くの村びとさんにイベントへ参加していただきたいと思いますので、何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。

募集 ヤマザクラ植樹祭を開催します

震災を風化させぬよう、2011 本のヤマザクラを植えるプロジェクトを行っています。このたび、8 回目の植樹祭を開催することになりました。ご協力頂ける方は、資料館までご連絡ください。（感染状況により中止あり）



令和4年3月13日（日）
10:00～12:00

お知らせ 修繕工事のため休館します。

昨年3月に発生した地震による修繕工事のため、資料館および交流館は**2022年4月1日（金）～4月28日（木）**まで臨時休館いたします。なお、4月3日の力キ養殖体験は開催予定です。



村びとさん申し込み開始！！

■村びと申込み期間に、村びと以外への申込み用紙の譲渡・カレンダーの SNS 等へ転載はご遠慮ください。

■申込み期間に**非会員の方のみのお申込みはご遠慮願います（＝代理で申込み）**。村びとさんの同伴者として、非会員の方が一緒に参加される場合は、申込み可能です。

村びとさん 3/6 申し込み締め切り

■イベントに参加希望の方は、**3月6日までに**お申込みください。

■応募者多数となったイベントは抽選し結果をお送りします。抽選にもれたイベントは「キャンセル待ち」とさせていただきます。

■抽選の有無に関わらず、資料館からの返信は3月6日以降になります。

☎電話で 0225-88-3927（水曜は休館日）

📠FAXで 0225-88-3928 申込み用紙を送信

✉メールで jomon@city.higashimatsushima.miyagi.jp

資料館受付で 申込み用紙を直接お渡しください。

QRコード

メールフォーム

人事のお知らせ



3月末まで出勤します！
会いに来てください！

佐藤 美彩子（展示解説員）

今年度で縄文村を卒業することとなりました。2017 年から 5 年間、いろいろな方に出会い、たくさん成長する機会を与えていただきました。心機一転、新天地でもがんばります！ありがとうございました☆

編集後記

村報も今回で 70 号！今回の編集イメージは「春」。ほんのりと可愛い配色を目指しました。世界遺産からオオヤマネコ、そばの観察日記まで様々な情報をご紹介しましたが、いかがでしたか？いよいよ新年度にむけてイベントの募集も始まります。みなさんにお会いできるのを楽しみにしています！